

令和7年度（第63回）埼玉県硬筆展覧会参考手本課題語句

小1

つき ほし よぞら

小2

休みの 日に 犬の さんぽを しました。
土手で きれいな 花を 見つけました。

小3

五月十二日（月）
土がもり上がって、ハウセンカのめが出てきた。
どんな色の花がさくのかとても楽しみだ。

小4

青い空を見上げた
「まぶしいな。」
思わず目をつぶる
ギラギラの太陽
今日も一日
暑くなりそうだ

小5

日本は、海に囲まれた島国です。豊かな漁場がたくさんあり、わたしたちの食生活と深く関わっています。みんなできれいな海を守っていきましょう。

小6

心のこもった手紙、美しい文字の伝言メモなどは、生活にうるおいと安らぎをもたらします。
手書きの文字には、書いた人の心が表れます。文字を正しく整えて書くことを心がけましょう。

中 1

拝啓

梅雨明けが待ち遠しいこの頃、いかがお過ごしでしょうか。さて、先日はお手紙をいただきありがとうございました。

最近、学校では部活動の大会に向けて、仲間と共に頑張っています。剣道は初心者ですが、先輩方が熱心に教えてくれて、練習が楽しくなってきました。今後も、日々努力を重ねて参ります。

暑い日が続くので、どうぞご自愛ください。

敬具

中 2

スポーツは、私たちの心身の健全な発達をうながし、社会生活を明るく豊かで活力に満ちたものにする人間だけがもつ、世界共通の文化のひとつです。今日では、老若男女の別なく、多くの人がスポーツに親しみ、楽しむようになりました。

心身共に成長する中学生時代に、生涯に渡って運動を楽しむ態度や能力を身に付けることは、とても大切なことです。

中 3

— あなたの国があなたのために何ができるかを問うのではなく、あなたがあなたの国のために何ができるかを問うてほしい —

「国」を「学校」に置き換えてみよう。よりよい学校生活を主体的に築こうとする自治的能力や責任感が生まれ、最高学年としての自覚が芽生えるだろう。皆で考え、悩み、意見を出し合いながら、自分にできることを見出してほしい。

高 1

それらの夏の日々、一面に薄の生い茂った草原の中で、お前が立ったまま熱心に絵を描いていると、私はいつもその傍らの一本の白樺の木蔭に身を横たえていたものだった。そうして夕方になって、お前が仕事をすませて私のそばに來ると、それからしばらく私達は肩に手をかけ合ったまま、遥か彼方の、縁だけ茜色を帯びた入道雲のむくむくした塊りに覆われている地平線の方を眺めやっていたものだった。ようやく暮れようとしかけているその地平線から、反対に何物かが生れて来つつあるかのように…

高 2・3・4

今から一年ほど前、自分が旅に出て汝水のほとりに泊った夜のことで、一睡してから、ふと眼を覚ますと、戸外で誰かが我が名を呼んでいる。声に応じて外へ出てみると、声は闇の中からしきりに自分を招く。覚えず、自分は声を追うて走り出した。無我夢中で駆けて行く中に、いつしか途は山林に入り、しかも、知らぬ間に自分は左右の手で地を攫んで走っていた。何か身体中に力が充ち満ちたような感じで、軽々と岩石を跳び越えて行った。気が付くと、手先や肱のあたりに毛を生じているらしい。

※高 1 課題は 『風立ちぬ』 堀 辰雄 著

※高 2・3・4 課題は 『山月記』 中島 敦 著

※手本の配布時期は、例年と同じ 5 月ごろを予定しております。

※その他、詳細の連絡は学校をとおして行われますので、それまでお待ちください。